

〈絆〉が唱えられるものの

日本社会には深い亀裂が(1)

学習院大学 遠藤薫

社会分断の軸としての

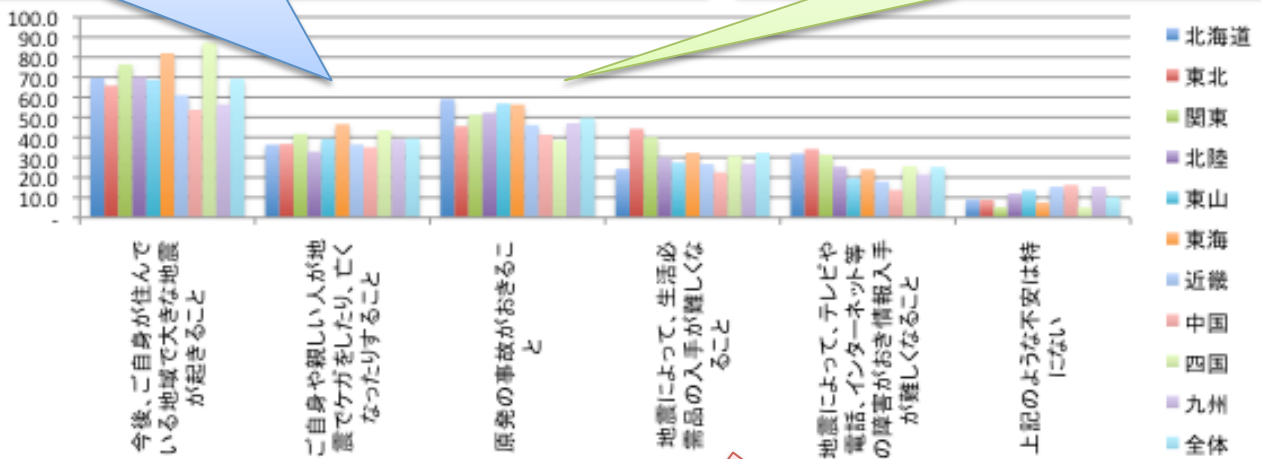
地域、年代、自由主義 vs. 福祉主義

将来の災害に対する不安は、地域によって異なる

- 大震災や津波、原発事故は、将来も起こる可能性がある。
- 人びとはこのリスクについて、どう感じているだろうか。
- 「地震の発生」、「地震による身体や生命への脅威」、「原発事故」、「災害時のモノ不足」、「災害時の情報不足」に対する不安を聞いてみた。
- 「地震の発生」、「地震による身体や生命への脅威」に対する不安は、今後巨大地震の発生が予想される地域で高い。
- 「原発事故」に対する不安は、原発立地地域で高い。
- 「モノ不足」や「情報不足」に対する不安は、東日本大震災で被災した地域で高い。
- 自分自身のリアリティと不安がつよく結びついていることが分かる。

今後地震が予想される地域で地震不安が高い

原発立地地域で原発不安が高い



科学研究費助成事業(基盤研究B)による「東日本大震災に対する価値観に関する実証的研究」(研究代表者:遠藤薫) 全国調査(2012年11月、サンプル数1216 回収率60.8%)、問4[4]

大震災被災地域でモノ不足や情報遮断への不安が高い

〈絆〉が唱えられるものの
 日本社会には深い亀裂が(2)
 学習院大学 遠藤薫

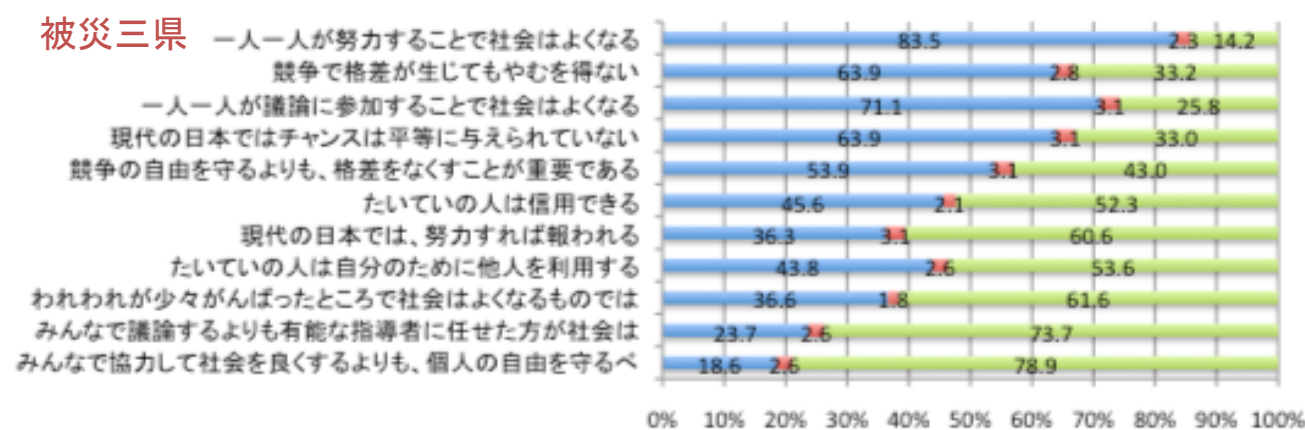
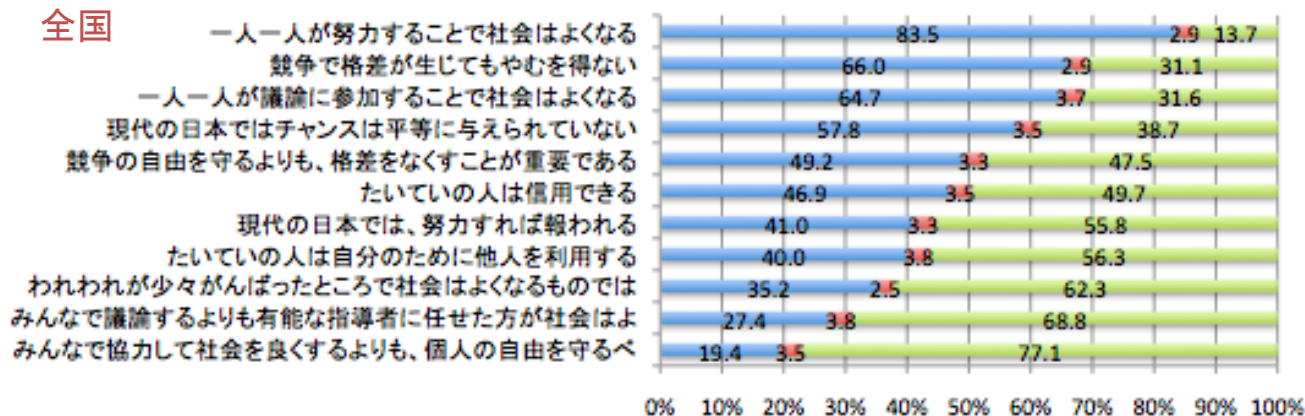
被災地と他地域の間に価値観・社会意識のズレが生じている

全国調査でも、被災三県調査でも、「一人一人が努力することで社会がよくなる」と考える点ではほぼ同じ。

しかし、全国調査では三県調査よりも、「競争で格差が生じてもやむをえない」「努力すれば報われる」と答える人が多い。

一方、三県調査では全国調査よりも、「チャンスは平等に与えられていない」「競争の自由よりも格差をなくすことが重要」「たいていの人は自分のために他人を利用する」と答える人が多い。

また、被災三県では、「一人一人が議論に参加することで社会はよくなる」と答える人が多いのも特徴である。



科学研究費助成事業(基盤研究B)による「東日本大震災に対する価値観に関する実証的研究」(研究代表者:遠藤薫) 全国調査(2012年11月、サンプル数1216 回収率60.8%) & 被災三県調査(2012年11月、サンプル数388 回収率64.7%)

災害被害に社会全体で立ち向かうことにより、機会の平等を保証し、議論の場を拡げてゆくことで、明日のビジョンを創り出す

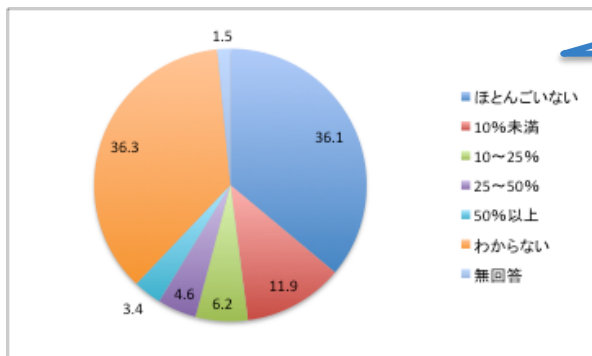
〈絆〉が唱えられるものの
 日本社会には深い亀裂が(3)
 学習院大学 遠藤薫

被災者の間にも気持ちのずれが・・・

- 「立ち上がろうとすると、そんなことやっても仕方がない、できるわけがないという人が必ずいる。できないかもしれないけれど、やらなければどうにもならない」(石巻市、飲食店経営、女性、50代)
- 「震災後、ずっとみんなで以前の状態に戻すために助けてきた。しかし、もう、みんながそれぞれに努力するべきだ。自分は、GPS等を使うことによって、漁業を立て直そうとがんばってきた。その事業に力を集中したい」(雄勝町、漁業、男性、60代)
- 「震災があって、すぐに横浜の方へ移住した。ここにも仕事もない。残っているのはやる気のない人たちばかり。どうしようもない。生きるためにはほかの土地へ行った方がいい」(石巻から横浜市へ移住、女、30代)

頑張っている人たちは、ほかの人たちに歯がゆさを感じているのではないだろうか？
 →「被災した人のなかには「意欲をなくしてしまっている人」がいる、と感じるのはどのような人か、三県調査で検証してみた・・・

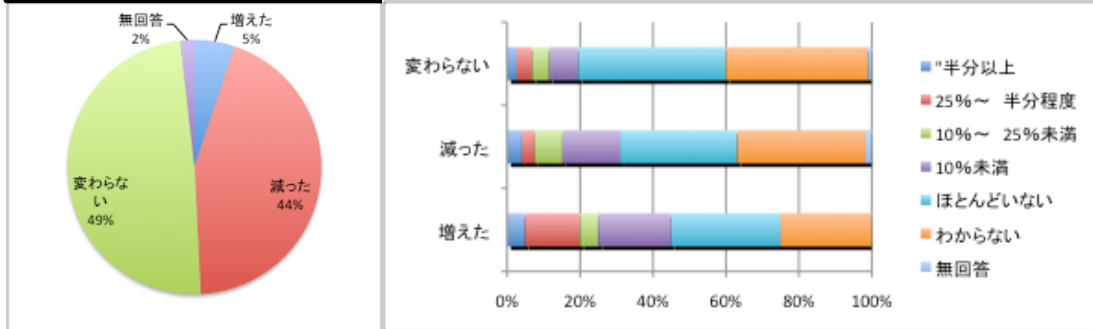
あなたのまわりの被災された方で、生活の再建に対して意欲をなくしてしまっている人は、どのくらいの割合でいると思いますか？(三県調査)



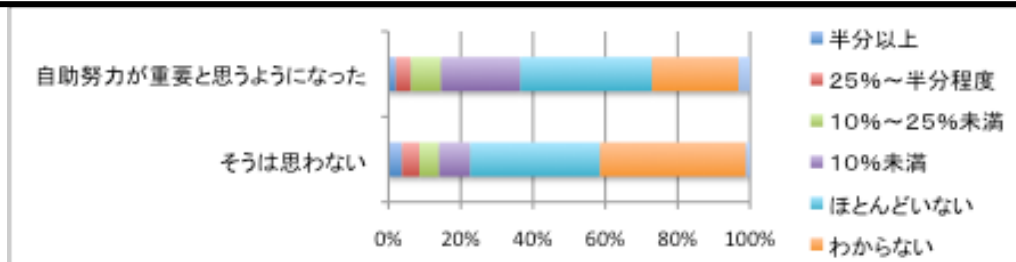
約四分の一が、「意欲をなくしている人がある」と回答

被災三県では、震災後、収入が減った人が44%。変わらない人が49%いる。震災後、収入が増えた人も5%いる。

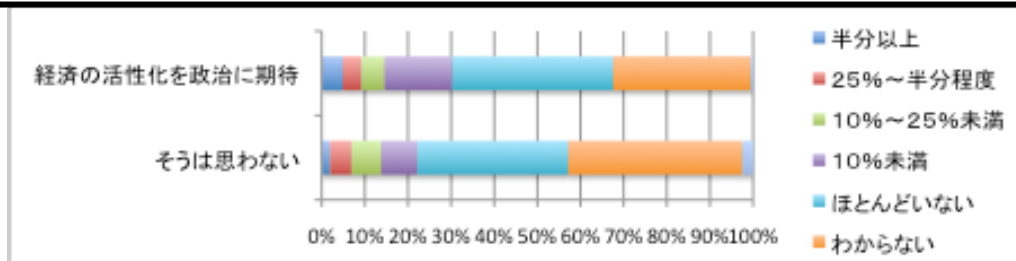
収入が増えた人は、「意欲をなくした人がある」と感じる割合が高い



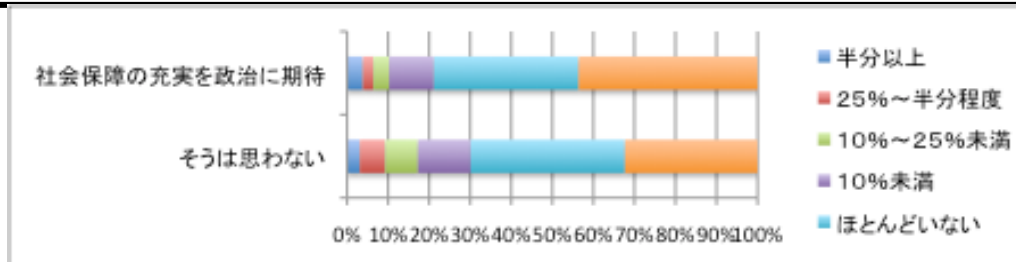
震災後、自助努力が重要と思うようになった人は、「意欲をなくした人がいる」と感じる割合が高い



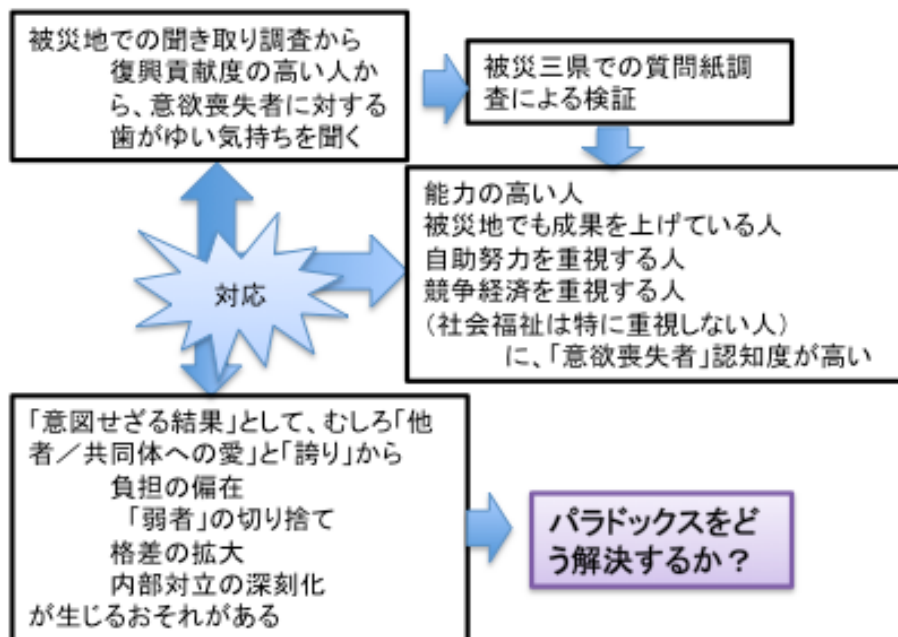
震災後、政治に経済活性化を期待する人は、「意欲をなくした人がいる」と感じる割合が高い



震災後、政治に社会保障を期待する人は、「意欲をなくした人がいる」と感じる割合が低い



つまり...



〈絆〉が唱えられるものの
 日本社会には深い亀裂が・・・
 学習院大学 遠藤薫

三つの分析をまとめると

- 東日本大震災は、福島原発事故を含め、被災が広い範囲にわたり、また、異なる性質の災害が複合的に発生したため、個々の被災地、個々の被災者の被災状況が大きく異なる。
- そのため、地域、年代、価値観など多元的な要因によって被災者も、そうでない人びとも、震災後社会に関する意識は大きく異なる。個人単位での分断が生じているともいえる。
- しかし一方で、災害を経ることで生まれる新たな共同性の芽生えもうかがわれる。
- この新しい可能性をどのように育てていけるだろうか？

解決すべき課題

- 被災とは何か
- 復興とは何か？
- 日本システムの過去と未来
- “個人”と“社会”を考える
- Micro-macro連結

- 情報・メディア問題
- 共同性／公共性の再検討
- グローバル社会における日本の責任

